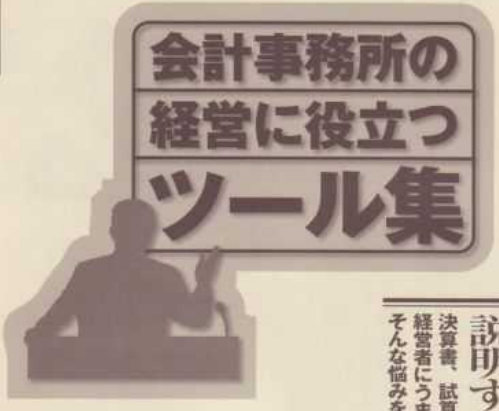
会計事務所の経営に役立つツール集



財務諸表を経営者にわかりやすく説明する秘訣がわかる！

決算書、試算表、キャッシュフロー計算書などの財務諸表を経営者にうまく説明できていないと感じることはないだろうか。そんな悩みを即解決するビデオ教材がある。

決算書の作成は会計事務所にとって最も重要な業務のひとつ。どの事務所でも、ここ作成に関しては絶対の自信を持って行なっているだろう。しかし、一方でその決算書を関与先の経営者に説明する際には、どれだけわかりやすく伝えることができているだろうか。「決算書をつくることと説明することは別」と説く落合孝裕税理士が講師を務める弊社ビデオ教材「わかりやすい説明の仕方シリーズ（決算書・試算表・キャッシュフロー計算書）」では、落合氏が自事務所で実践している決算書・試算表・キャッシュフロー計算書に対してそれぞれのわかりやすい説明の仕方、そのポイントをすべて公開。さらに、5月施行の新会社法に対応した「新会社法で決算書のここが変わった！」では、これまでとの表示方法の違いから説明テクニックに至るまで細かく解説。これら全タイトルで財務諸表の説明の仕方がすべて網羅できる。

決算書は会計事務所の「商品」そのものだ。その商品＝決算書をつくることに関しては大方の事務所が誠心誠意、心を込めて取り組んでいる。ところが、いざ関係者に説明する段になると、その商品の中身についてうまく説明できない。実際のところ、どのくらいの会計事務所が心を砕いているだろうか。正直、疑わしいところだ。

「決算書の説明をしても経営者からは数字の意味が理解できない」「細かい数字を聞いてもよくわからないといって最後まで説明を聞いてもらえない」

落合孝裕税理士
落合会計事務所（東京都世田谷区）所長。中小企業大学校、東京商工会議所等で研修・セミナー講師としても活躍。昨年7月には著書「新会社法対応　決算書の読み方が面白いほどわかる本」（中経出版）を出版した。

「うん、うんと頷くだけで経営者がきちんと理解できているとは到底思えない」というような経験はないだろうか。

これらは全て、説明の仕方の悪さが原因となって起きている現象だということを今、改めてみなければならない。つまり、自分たち（会計事務所）の説明の仕方が相手（経営者）にとってわかりにくいのだ。

そもそも経営者の決算書の数字に対する理解度はかなり「感覚的」なもの。「前期に比べて売上が上がったのか下がったのか」「在庫は増えたのか減ったのか」といったレベルだといえよう。この感覚的な捉え方からより正確な把握へと改め、決算書を以降の経営に役立ててもらうためにも、「わかりやすく」説明することがとても重要となるのだ。

わかりやすさの基本は経営者の立場にたった説明

では、決算書を経営者にわかりやすく説明するにはどうしたらいいのか。

ポイントのひとつとして挙げているのが、金融機関が決算書のどこを重要視するかをきちんと伝えること。

これは、企業が金融機関から融資を受ける際の交渉において大きな意味を持つ。経営者であれば誰しも関心を抱く部分だからだ。つまり、相手の興味や関心をいかにひきつけられるかが、理解度を深めるポイントになるといえる。

また、事前にリハーサルをすることも重要なポイントのひとつ。説明の順序やコメントをいくら頭で理解していても、実際にその通りうまくできるとは限らない。例えば書類を相手に向けて説明するということは、自分は数字を上から逆さまに見るということだ。慣れないうちは「6」と「9」を見間違えてしまう可能性もあるだろう。説明のスピードや声の大きさのメリハリなども繰り返しリハーサルをすることで、徐々に自分のペースが掴め、自信を持ってできるようになるのだ。

このように、同教材では決算書全体に関わる説明の仕方のポイントを7項目に分けて説き、さらに損益計算書、貸借対照表それぞれについての重要ポイントを挙げ細かく解説している。

「試算表」「キャッシュフロー計算書」

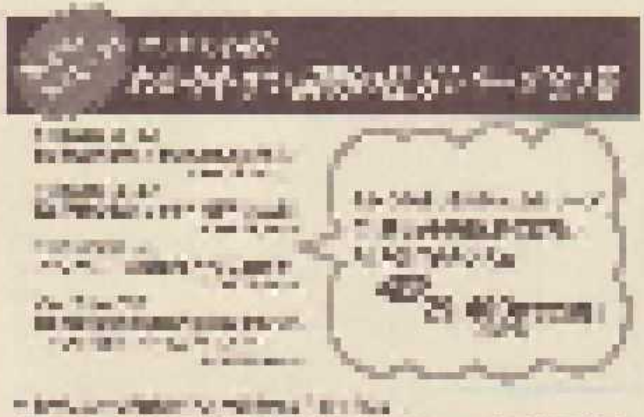
> **わかりやすい説明の仕方シリーズ**
> **ロールプレイングで効果倍増!!**
>
> 全4タイトル共に実際の財務書類を用いて事例に基づいた説明を展開。現場に即した内容に仕上がっている。
>
> これらのビデオ教材を製作するに当たり落合税理士は「経営者とのコミュニケーションの重要性」を最も重要項目として挙げた。「試算表」の巻に同事務所の職員である平井氏を講師に起用し、ロールプレイングを収録したのも「コミュニケーションがいかに重要かということを理解してもらうために欠かせない」と考えたからだ。
>
> 同事務所では、担当者と落合氏の間で必ずロールプレイングを実施。そうすることで、職員がどの程度、経営者に説明できているのかがわかり、スキルアップの見極めにもなるという。ビデオ研修後には、是非、説明のロールプレイングをしてみよう。
>
> また、新会社法に興味を示さない経営者はいない。新しい決算書をきっかけに経営者との関係をよりよい方向へと導くチャンスでもある。

会計事務所の
経営に役立つ
ツール集

も然り。試算表の巻では、決算書との違いから作成・説明のポイントに至るまで同事務所の職員である平井満広氏が月次の訪問で実践している説明方法を解説。さらに、善谷氏を相手にしたロールプレイングの様子も収録されている。

「新会社法に基づいた決算書」と強調し興味をつながす

新会社法で決算書はどのように変わったのか？　これまで決算書を敬遠してきた経営者にとっては、新会社法施行はある意味チャンスともいえる。会計事務所の説明の仕方次第では「決算書に強い経営者」へと変貌する可能性があるからだ。

善谷氏は現在、決算書を顧問先に説明するにあたり「新会社法に基づいた決算書」という点を三日三晩伝えているという。この言葉があると、経営者が決算書に寄せる関心はぐんと高まるのだ。

会計事務所にとってみても、以前に比べてより「わかりやすく」説明することで、商品＝決算書をアピールすることができる絶好の機会。経営者から質問が出てきたら、わかりやすい説明ができた証拠といえよう。